

名鉄西尾・蒲郡線（西尾駅～蒲郡駅）対策協議会第29回幹事会議事録

- ・日時：平成21年11月17日（火）10:00～12:00
- ・場所：吉良町役場東庁舎1階 第1会議室
- ・出席：（沿線市町）西尾市 榊原課長、谷崎主事
蒲郡市 川畑主査
吉良町 近藤企画課長、伴野課長補佐
幡豆町 深谷課長、三浦係長
（愛知県）地域振興部交通対策課 松井主幹、矢口主査
（名鉄）企画管理部 牧野課長、近藤サブチーフ
（オブザーバー）中部運輸局鉄道部管理課 後藤専門官

〔発言要旨〕

（蒲郡市）

受益者負担という観点から、この区間の運賃改定をお願いしたい。
前回の総会で、現状の名鉄での存続は確認されたが、沿線市町の支援策については、他の事例などを基に検討を行っていききたい。

（吉良町）

支援と言われても、平成17年度と平成20年度を比較して、収入が5千万円の減に対して、赤字額は2億5千万円増えている。また、この区間はSFカードも整備されない区間があり、利便性も低い。合理化を進めてきたというのであれば、赤字額は減るはずである。利便性も向上せず、赤字額だけ増えるでは住民や議会に説明しても理解は得られない。

（幡豆町）

蒲郡市同様、他の事例の研究及び利用者の負担も必要であると考えている。

（名鉄）

事業者の合理化策としては、駅員無配置化やワンマン運転化などが考えられるが、平成10年にワンマン運転化を図るなど、それら施策については、相当早い段階から実施してきている。また、そうした状況にあって、平成19年度までは更に人件費を抑制するなどの費用削減を進めてきており、ご理解をいただきたい。
利便性向上という点については、ご指摘のとおり、蒲郡線内の各駅ではSFカードをご利用いただくことはできないものの、吉良吉田駅を跨いでご利用になるお客さまには、同駅に設置した乗換改札で処理を行うことでSFカードを利用可能としたほか、福地から吉良吉田までの各駅には、SFカードシステム対応の駅務機器を整備すると

ともに、駅集中管理システムをあわせて導入し、お客さまへの各種対応を遠隔操作によって行うことができるようになった。また、平成20年6月のダイヤ改正では、吉良吉田駅から名古屋方面への直通列車を運転することで、西尾駅で必要であったお乗換が不要になるなど、利便性が向上した面もあるのではないかと。また、座席が指定される特別車を併結した特急の運行に対する要望があることは承知しているが、その一方で、特別車両券が不要な快速急行などの増発によるフリークエンシー向上という点を評価するご意見をいただいていることも事実である。全てのお客さまに一律的な評価をいただくことは、難しい面もあると考えている。

大量輸送という鉄道特性が発揮できていない広見線の新可児～御嵩間においても、西尾～蒲郡間と同様の協議を沿線市町と行っているところだが、この広見線では、沿線市町などによって構成される協議会が、「名鉄広見線活性化計画」の基本方針を取り纏められた。その中では、当社による継続運行を求める一方で運行費支援も行うとされており、当社としては、そうした経緯も踏まえた判断を行う必要もあると考えている。

(愛知県)

他事例として、上下分離はしなくても、施設等の保守に関する費用は自治体、運行に関する費用は事業者が負担という事例もある。その他にも、第三セクター鉄道に対する支援策として、固定資産税を減免している事例がかなりのところで行われている。支援対象経費については、一例としてではあるが、固定資産税、減価償却費といった費用を積み上げる考え方もあるかと思う。支援の考え方については、柔軟に検討していくべき。

ワーキング部会で集約している、名鉄西尾・蒲郡線の現状整理については、平成22年の総会ではこれまでの検討経過を踏まえ中間報告という形でとりまとめ、利用増進策等がまとまりたい、最終報告という形にすることになるのではないかと考えている。

(西尾市)

本日の議論を踏まえて、平成22年2月開催予定の総会で決定する、「具体的な支援策」を考えていくにあたり、各市町及び名鉄で、それぞれトップの考えを踏まえた正式な案の策定をお願いしたい。

次回は12月16日(水)の14時から、幡豆町役場で開催する。

(以上)